

# チャペル週報

No.5

2016.5.9 ~ 5.13

春季宗教運動特集号

主の救いを黙して待てば、幸いを得る。  
若いときに軛を負った人は、幸いを得る。  
(哀歌3章26節、27節)



トミヤマ記念礼拝堂(神戸三田キャンパス)

関西学院宗教センター

---

## ☆ チャペル・スケジュール ☆

---

時間 10:35～11:05 場所 各学部チャペル

---

5月9日(月) ランバスチャペルアワー①「おいしいチャペル」ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

神 ランバスチャペルアワーに合流  
経 上ヶ原ハピタット-GV-の働きを覚えて  
人 川 島 恵 美(人間福祉学部准教授)  
聖和 聖書物語「わらいの子」  
理 前 川 裕(宗教主事)

---

5月10日(火) 大学合同チャペル「総主題:建学の精神」 10:20～11:20

西宮上ヶ原キャンパス 会場:中央講堂  
「大学で何を学ぶか」小 菅 正 伸(副学長)  
西宮聖和キャンパス 会場:メアリー・イザベラ・ランバスチャペル  
「主の言葉に従って旅立つ」平 林 孝 裕(高等教育推進センター長)  
神戸三田キャンパス 会場:VI号館101号教室  
「Mastery for Serviceを生きる」田 淵 結(院長)

---

5月11日(水) 大学合同チャペル「総主題:建学の精神」 10:20～11:20

西宮上ヶ原キャンパス 会場:中央講堂  
「Mastery for Serviceを生きる」田 淵 結(院長)  
西宮聖和キャンパス 会場:メアリー・イザベラ・ランバスチャペル  
「痛み」の共感とボランティア-「熊本地震」を覚えて- 舟 木 讓(宗教総主事)  
神戸三田キャンパス 会場:VI号館101号教室  
「神戸三田キャンパスの発展を願って」村 田 治(学長)

---

5月12日(木) 神 シリーズチャペル「平和を創る」岩 野 祐 介(神学部教授)

文 音楽チャペル 混声合唱団エゴラド  
社 春の音楽チャペル① ゴスペルクワイア"P.O.V."  
法 音楽チャペル 聖歌隊  
商 海外での奉仕を考えるチャペル ハピタット  
国 English Chapel Timothy Y. Tsu(国際学部教授)  
聖和 赤 木 敏 之(関西学院幼稚園園長)  
総 Eco Habitat関西学院

---

5月13日(金) 院 加 納 和 寛(神学部准教授)

神 <YMCA活動報告>赤 松 真 希(神学部4年)  
文 English Chapel Andreas Rusterholz(chaplain)  
人 中 野 陽 子(人間福祉学部教授)  
理 前 川 裕(宗教主事)

---

◇ランバス早天祈祷会 毎金曜日 8:20～8:40 ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)  
5月10日(火) 宗教運動のために 永 田 雄次郎(文学部教授)  
5月13日(金) ペンテコステ(5/15)を迎えるにあたって 望 月 康 恵(法学部教授)

---

# 「Mastery for Serviceを生きる」

田 淵 結

二年生以上の皆さんはもちろんのこと、4月に入学された一年生諸君も、もう何度も“Mastery for Service”という言葉を目にされていることでしょう。21年前、阪神淡路大震災発生の日、当時宗教センターに集まった学生・教職員でボランティア活動がたちあげられようとしたとき、一人のOBが「今こそあなたのMastery for Serviceを！」という一枚のポスターを描かただけで去って行かれました。これが最初のボランティアワークとなりましたが、この言葉こそが関西学院のその後震災救援活動を支えるものとなったのです。

関西学院は、前院長であるグルーベル先生のもとで、21世紀に向けてのミッションステートメントを発表しましたが、そのなかに「思いやりと高潔さをもって社会を変革することにより、スクールモットー“Mastery for Service”を体現する」という言葉があります。私たちのスクールモットーは、単なる言葉ではなく、それによって社会がよりよく変わるための行動、生き方を示すものと理解されているのです。別の言葉で言うと、皆さんが関西学院らしいリーダーシップを、皆さんの場で発揮することが期待されているのです。リーダーシップというと、何かグループをぐいぐい引っ張る強さのようなイメージがありますが、関西学院の考えるリーダーは、グループメンバーへのサービスをする存在なのです。自分の思いを一方向的に押し付けるのではなく、それぞれの思いをしっかりと受け止め、自分の属するグループが全体として求める目標を明確にし、メンバーひとりひとりの達成感を導き出すことのできるリーダーとなっていきたいのです。そんなことは理想的すぎるかもしれませんが、しかしだからこそ自分がそうなれるために、学び、考え、訓練され、体験を重ねるなかで、自然とみなさん自身が、いろんところで「求められる存在」になっていく努力を今日から始めていただきたいと思います。

Mastery for Serviceを体現する、それは言葉を換えていえば、みなさんなりのリーダーシップのスタイルを確立し、それを発揮すること、ということになるでしょう。関西学院での学びに真剣に取り組んでいただくなかで、「死に至るまで従順に」私たちに仕えられた「主」と呼ばれるイエス・キリストの存在を関西学院が土台に据えているというその意味をもしっかりと受けとめていただくことを願っています。

(院長)

# 「痛み」の共感とボランティア -「熊本および大分における地震」を覚えて-

舟 木 讓

本年4月より「関西学院大学ボランティア活動支援センター」が発足し、またその下に日常の具体的な業務を担う部署として「関西学院大学ヒューマン・サービス支援室」が同時に設置され、そこでボランティアの情報収集や教育を担う「ボランティアコーディネータ」が働いておられます。1995年1月17日に起こった「阪神・淡路大震災」を契機として発足した教職員学生の有志からなる「ヒューマンサービスセンター」の働きと理念を継承しながら、さらに豊かな働きをなすための一歩が始まったと言えます。

そのように新しい歩みを大学が開始した直後であった4月14日夜ならびに16日未明に熊本および大分を中心とした激しい地震が発生し、その後の余震、土砂崩れ等による震災関連死を含めた犠牲者が60名をはるかに超え（4月26日現在）、行方不明者を含め今後とも被害が拡大する可能性を含んで今日に至っています。

こうした事態に対して私たちが何をなすべきかが、これまでも問われ、拙速にならず冷静で迅速な対応が叫ばれてきました。今現在もボランティアの受け入れが拡大し、今後さらに具体的な「支援」が必要となりますが、私たちの学校が掲げて建つ理念である「キリスト教（主義）」は、このような事柄に対してどのような力を持っているのでしょうか。

この問いに簡単に答えを出すことは難しいですが、ヒントはキリスト教信仰の中心であるイエスの人間や社会に対する視点にあると言えます。イエスは同時代のユダヤの国内において常に「忘れられている人」「存在を否定されている人」「抑圧されている人」「差別されている人」等々何らかの大きな「痛み」を負い、さらにその「痛み」を孤独の中でさらに深くしている人々へまなざしを注ぎ、「寄り添うこと」を常に徹底されたと考えられます。

そして、私たちの学校のスクール・モットーである「Mastery for Service」は、まさにその時その時に最も「痛んでいる」人々の立場に立って現実を直視し、自らに与えられた力を十二分に発揮することを私たちに迫る言葉であり、またそのための備えを日々行うことへの誘いの言葉であると言えます。

今九州で、またそれ以外の地域において「痛んでいる」人への共感をもって、今なすべき事、なし得る事を判断し、それを実行に移す行動力を共に発揮して参りましょう。

(宗教総主事)

# The Twofold Task

## －神戸三田キャンパスの発展を願って－

村 田 治

神戸三田キャンパスは今年で開設22年目を迎えます。2013年にはアカデミック・コモンズが、また、2015年には理工学部新たに三つの学科が開設され新たな発展が期待されます。アカデミック・コモンズでは、理工学部と総合政策学部の学生が一緒になって新しい取り組みを行っています。その中には、昨年、一昨年と時計台をキャンパスに見立てたプロジェクションマッピングの製作に携わった「からくり堂」の活動も含まれます。まさに、理工学部と総合政策学部の学生の協働により新しいアイデアや融合が生まれています。神戸三田キャンパスのアカデミック・コモンズは、他の大学の共同学習空間とは異なり、授業を前提とせず、学生の自主的な研究活動の場となっており今後の発展が期待されます。

また、理工学部に新設された3学科が目指すのは、社会の持続的発展やQOLの向上などの「グリーン・イノベーション」と「ライフ・イノベーション」です。これらは、数学、物理、化学、生命科学、情報などさまざまな分野の連携や融合によって初めて可能になります。また、異なった分野の融合という意味では、総合政策学部は設立当初から、学際的で能動的な教育や研究を行っています。

1889年に関西学院を創立されたランバス先生は、医療と伝道という二重の任務（The Twofold Task）を追及されました。それは信仰と科学の融合と考えることもできるでしょう。関西学院大学では、SGU構想の基礎にダブルチャレンジ制度を位置づけています。専門分野以外に、海外での学び、学外での学び、他分野の学びのいずれかにチャレンジさせるという制度です。この背景には、独創性やイノベーションは異なった領域の知識や知恵が結合するときにしか生まれないという考え方があります。アイザック・アシモフも言っていますように、異なった分野の出会いや融合こそが、イノベーションや創造性を生み出す源泉であると考えます。まさに、理工学部や総合政策学部が取り組もうとされていることに他なりません。また、KSC戦略本部の「神戸三田キャンパスにおける将来構想」の基本にも「世界と競う文理シナジーキャンパスの創設」が謳われています。異なった分野に取り組むというThe Twofold Taskこそが、これからの社会の変革やイノベーションにとって必要不可欠であると考えます。今後、神戸三田キャンパスから発信されるイノベーションに大いに期待したいと思います。

(学長)

# 主であれ。而して仕えるために。 －支援型リーダーのすすめ－

小 菅 正 伸

But Jesus called them to Himself and said, “You know that the rulers of the Gentiles lord it over them, and those who are great exercise authority over them. Yet it shall not be so among you; but whoever desires to become great among you, let him be your servant. And whoever desires to be first among you, let him be your slave—just as the Son of Man did not come to be served, but to serve, and to give His life a ransom for many.” (Matthew, 20:25-28)

ここに引用したイエスの言葉は、「あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者になり、いちばん上になりたい者は、皆の僕になりなさい。」と説くものであり、本学のスクール・モットーであるMastery for Serviceの基盤をなす教えでもある。この校訓は、これを提唱されたベーツ院長の言葉を借りると、以下のように説明されている。

“We aim to be strong, to be masters—masters of knowledge, masters of opportunity, masters of ourselves, our desires, our ambitions, our appetites, our possessions. We will not be slaves whether to others, to circumstances, or to our own passions. But the purpose of our mastery must be not our own individual enrichment, but social service. We aim to become servants of humanity in a large sense.”

この考え方は、1970年代後半にマネジメント論の分野で注目された支援型リーダーシップ (Servant Leadership) の考え方と親和性をもつ。この立場では、「組織のリーダーは、トップダウン型で組織を支配し、指示・命令によって人を率いるのではなく、信頼関係にもとづきコーチング等によってすべての組織構成員を支援する必要がある」と説く。奉仕こそがリーダーシップの本質であり、良心に従い、より良い世界の実現へと導くことを自らのミッションとして課す支援型リーダーは、本学が率先して育成すべき人物像であろう。学生諸君には、是非、支援型リーダーを目指して、本学での「練達」に励んで欲しい。

(副学長)

# 《旅》の精神

## －「主の言葉に従って旅立つ」－

平 林 孝 裕

「アブラ [ハ] ムは、主の言葉に従って旅立った」。聖書には《旅》について物語っている箇所がたくさんあります。キリスト教信仰の本質的なところに《旅》が関係するように思います。

聖書の旅は、たんなる「放浪」ではありません。また経由地や経路がすべて明らかになっている「ツアー旅行」でもありません。聖書の旅は何のためか（目的）、どこへ目指すのか（目標）は少なくともいずれかは与えられています。しかし、途上で想定外の問題も起こりますし苦難に出会うこともあります。必要があるので、何かの実現のために、あえて「旅立つ」のが、聖書が物語る《旅》です。

そのような旅の目的・目標は、「使命」（Mission）と呼ばれます。その使命から離れることなく（on Mission）歩むことが、大切です。私たち一人一人が必要とされ、実現すべき何かを与えられていると聖書は考えています。それが《旅》というかたちをとるのです。学院の創立者ランバスもそのような「使命」をもった人であり、生涯、世界中を旅し続けました。大学生活には、そのような「使命」との出会いがまず重要であると思います。

《旅》は、しかし「地理的」移動を意味するにとどまりません。旅の「精神」は、現状からの変化や可能性への挑戦を厭わないということです。旅をすれば日常からの変化を経験しなければなりませんし、思いもよらない新しいことに出会うことになるでしょう。旅はつねに「冒険的試み」（Venture）です。変化に対応し可能性をきり拓きながら歩を進めるのです。学院設立から大学昇格への歩み、その後の発展は学院における《旅》の精神を体現したものと言えるでしょう。

関西学院で学ぶとき、《旅》の精神を心にとめて欲しいと願います。新しい学問に取り組む、初めての経験に挑戦してみる、未知の外国語の修得を目指す、海外に留学する…、さまざまな「冒険的試み」があるでしょう。そのような「試み」を、目指すところ、実現すべき何か、「使命」と結びつけながら歩むことがさらに重要です。

《旅》する者の大学生活はきっと有意義なものとなるにちがいありません。

（高等教育推進センター長）

## ●ランバスチャペルアワー

学生たちが企画するチャペルです。どなたでもお気軽にご参加ください。

5月9日(月)「おいしいチャペル」ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)10:35~11:05

\*ランバスチャペルアワー委員会は、共にチャペルをつくる学生を募集しています。

興味のある方は、吉岡記念館事務室・宗教センターに声をおかけください。

## ●ランバスチャペル・ヌーンコンサート

西宮上ヶ原キャンパスの正門を歩いて右手に見えるチャペル「ランバス記念礼拝堂」では、礼拝はもちろん、コンサートや式典、講演会、卒業生の結婚式などが行われています。5月に入ると関学を代表する音楽団体による恒例のヌーンコンサートが開かれます。お昼休みのひととき、どうぞ耳を傾けてみてください。

5月11日(水)関西学院大学混声合唱団エゴラド

5月12日(木)関西学院グリークラブ

5月19日(木)関西学院聖歌隊

5月23日(月)関西学院交響楽団 管楽アンサンブル

5月26日(木)関西学院バロックアンサンブル

5月30日(月)関西学院交響楽団 弦楽アンサンブル

6月1日(水)関西学院ハンドベルクワイア

6月6日(月)関西学院大学応援団総部 吹奏楽部

6月9日(木)関西学院ゴスペルクワイア Power Of Voice

いずれも12時50分~13時20分

ところ:ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原キャンパス)

主 催:宗教センター・宗教音楽委員会

## ●大阪梅田キャンパスチャペル

阪急梅田駅から徒歩すぐ、アプロースタワー14階の大阪梅田キャンパスでは、大学院授業期間中の毎週木曜日にチャペルアワーを開催しています。(17:50~18:20 1405号教室)

主 題:「ペンテコステを覚えて-「熊本地震」を覚える-」

5/12(木) Jeffrey Mensendiek(宗教センター宗教主事)

5/19(木) 山本 俊正(キリスト教と文化研究センター長)

5/26(木) 舟木 讓(宗教総主事)

## ●オルガン音楽の泉 2016 Spring semester

パイプオルガンの響きに想うお昼のひととき、どなたでもご自由にお楽しみください。

第9回 5月25日(水) 太宰 まり(関西学院オルガニスト)

第10回 6月16日(木) 西山 聡子(本学オルガン講師)

第11回 6月28日(火) 松原 晴美(桃山学院大学オルガニスト)

第12回 7月8日(金) 山本 真希(りゅうとびあ新潟市民芸術文化会館専属オルガニスト)

いずれも12:50~13:20[開場12:40予定]

ところ:関西学院中央講堂(125周年記念講堂)

主 催:宗教センター

## ●タベの祈りatランバス~テゼの音楽とともに~

ろうそくの光を灯して、テゼの歌を歌いながら、皆でこころ静かに過ごすタベの祈りのひとときです。どなたでもご参加ください。

第1回 5月26日(木)18:30~20:00

第2回 6月30日(木)18:30~20:00

ところ:ランバス記念礼拝堂(西宮上ヶ原)

主 催:タベの祈り準備会(学生有志)

協 力:関西学院宗教活動委員会

## ●CD・DVDライブラリー

吉岡記念館事務室宗教センターには、教会音楽、キリスト教に関するCDやDVDを備えています。本学学生及び教職員(学生証または身分証明書が必要)であればどなたでも利用できます。希望者は事務室までお越しください。

## ●使用済み切手収集にご協力ください

本学では日本キリスト教海外医療協会の(JOCS)切手部の活動に協力し、使用済み切手の収集をしています。通常切手も対象としていますのでどうぞ吉岡記念館常設の回収箱にお届けください。

## ●盲導犬育成のためご協力をお願いします

関西学院宗教活動委員会は、目の不自由な方々の社会参加促進を願い、社会福祉法人「日本ライトハウス」の募金活動に協力しています。吉岡記念館事務室ははじめ各学部カウンターに募金箱を用意しておりますので皆様の温かいご協力をお願いいたします。